

1年生の詩

いろいろな海

海はどこまでも広がっている

それは大きい水族館

時にはあれ おだやかになる

時にはきたなくなったりきれいにもなる

海の状態はついに決まてない

一回一回バラバラになっている

まるで友達どうしの仲のように

鳥

鳥は飛行機のような

とまっているときは

飛行機は休み

とんでいるときは

仕事中

いつも仲間どうれ助け合い

とびまわっている

木

木はどんどん成長していく

四季子いつでも元気に過ごしている

鳥の巣作りにも役立っている

木はみんなにとても役立っている

つながり

親子三人で

仲良く手をにぎっている

にぎり返したり 強くにぎったり

にぎり返されるとうれしい

強くにぎられてもうれしい

手をにぎるといふ事は

相手とつながるといふ事だ

太陽

太陽は神様のようだ

いつも空から皆を見守っている

いつもあたたかい光をふらせている

そのおかげで人は去月つ

だから皆は太陽が好きだ

都会

いつもおこる人の川

みんな急いであわててる

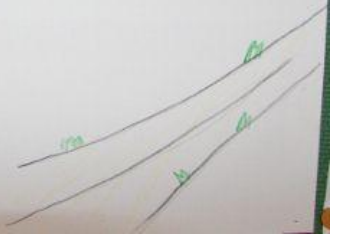
みんな急いで走ってる

こんなことが

毎日おこる

もみじ

秋になると
もみじが咲いて
やかたて落ちる
ぶつかってサワサワと音が出る
でも落ちないもみじは
はずかしいのか
ねているのか
わからない
赤くなるまでがんばっているかもしれない



虫

虫は小さい
虫はどこにいるのだろう
土の中、原っぱ、とんでいる
虫が二四いっしょにとんでいる
何をしているだろう
おにぎっこのかな



火

あたたかい
ストーブのよう
明るい
電気のように
手をかざしてみよう
きつとほつとする
心があたたかくなる

気持ち

雲は人と同じように気分がある
どこかへ行きたい時は動物の形になり
うれしい時は太陽と遊んでいる
気分が悪いと灰色の雲になり空をおおう
まるで人の気持ちを表しているようだ

カメムシ

百夏になると
カメムシは
家の中を飛びまわる
あああ
風に飛ばされる
葉っぱのようだ

散歩

いとこの左手と
私の右手は
しっかりと
つながっている

小さな手のひらに
大きな太陽のような
やさしさと
あたたかさがあった



空のインク

空は青い

神様が

青いインクもこぼしたようだ

夕方になると

赤のインクもこぼれる

夜になると

黒のインクもこぼす

金のつぶもおとす

